

## 【南九州税理士会会長賞】

### 税金で人を幸せにできる

南さつま市立加世田中学校

三年 宇都 市香

私の妹は、数万人に一人という割合で発症する「低リン血症性くる病」という病気をもっている。この病気は、ビタミンDやリンが足りなかったり、何らかの原因でビタミンDがうまく働かなかつたりすることによって骨の石灰化が妨げられ、通常と比べて骨が柔らかくなる病気だ。だから妹は、小学二年生なのに五歳児くらいの身長だし、体が小さいためご飯を食べるのに時間がかかったり、膀胱が小さいためおむつが外れるのも遅かった。この病気のため、まだ幼いのに今までに手術を二回もしたり、二ヶ月に一回注射を打ったり、市立病院や大病院で受診をしたりとたくさん治療を行ってきた。

そんな妹の治療にかかる費用は多額でその一部が税金から支払われていると両親から聞いたことがある。私の両親は共働きだが、もし両親が治療費を全て払わなければならなかったら、私の家は食べるものも限られてくるし、買いたいものも我慢しなければならぬという生活になってしまう。ましては必要なものも買えなくなってくる。今のようになど同じような生活ができるのは、両親のおかげ、そして税金のおかげだと思っている。

妹や病気の人のために使われる医療費は、会社で稼いだお金にかかる税金や消費税などで私のような子供にもかかる税金から主に支払われている。私たちの普段の生活の中で、商品を買ったときや仕事で働いたときのお金の一部が税金として納められているのだ。税金は、医療費だけでなく、年金として高齢者のもとに届いたり、子育てをする家族や介護を必要とする家族へも届けられている。また、私の身近なところでは、学校の設備や道具にも使われていて、私たちが困ったときや誰かの助けが必要なときに生活を支えてくれるのが税金なのである。そしてその税金は私たち国民一人ひとりが何らかの方法で国に納めているものなのである。

私も大人になって所得税や住民税などの多額の税金を納められるようになったら、たくさん働いて妹や私の家族が税金によって支えられたありがたさを忘れず、次は自分が困っている人を支えたいと思う。医者や看護師などで直接助けてあげられなくても、税金を納めるというサポートの仕方は私たち国民全員ができる、人を助けるための方法だと思う。私の妹や家族が支えられた分、私はちがう誰かを支えて、またちがう人が誰かを支えていくという世の中になれば、税金で人を幸せにできると思う。今は元気でも、いつかは私も歳をとって病気になったり、税金による誰かの助けが必要になったりするだろう。だからその時に私も誰かに助けてもらえるくらい若いうちに働いて税金を納めていきたい。そのため勉強して学力を上げていくことが、今の私に求められていることだと思う。そして、良い仕事に就いたら、人の幸せを願いながら税金を納めていきたい。